

新興感染症感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム

第 11 回ワークショップ事後アンケート 集計結果

2025 年 3 月

公益財団法人 全日本科学技術協会

このたびは、「新興感染症感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム」第 11 回ワークショップにご参加くださりありがとうございました。

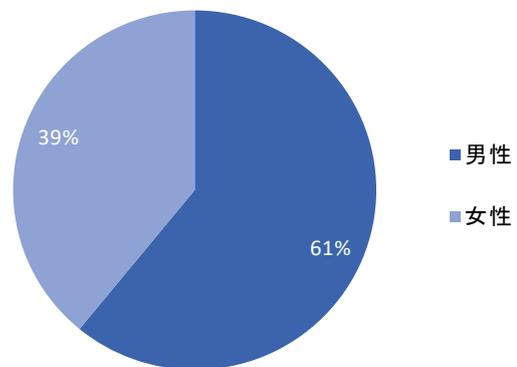
JAREC は、これからも必要な感染対策など「PREPAREDNESS」について考え、広域・産学官連携してのネットワーク構築の「場」として、ワークショップを開催して参ります。

つきましては、本アンケートへのご協力をお願い致します。

事後アンケート（回答総数 64 名）

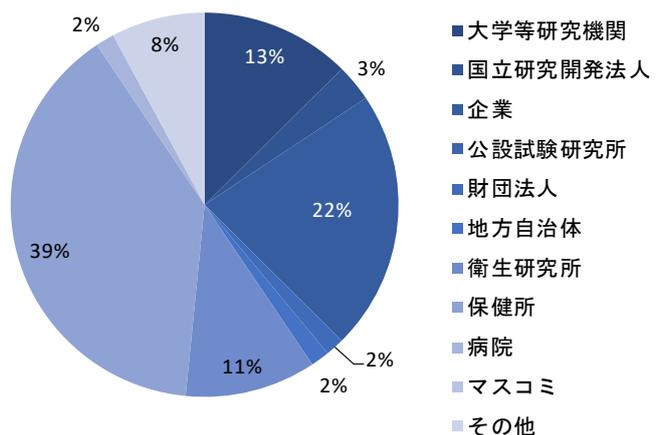
* 性別

	回答数	構成比
男性	39	61%
女性	25	39%
計	64	



* 所属区分

	回答数	構成比
大学等研究機関	8	13%
国立研究開発法人	2	3%
企業	14	22%
公設試験研究所	0	0%
財団法人	1	2%
地方自治体	1	2%
衛生研究所	7	11%
保健所	25	39%
病院	1	2%
マスコミ	0	0%
その他	5	8%
計	64	



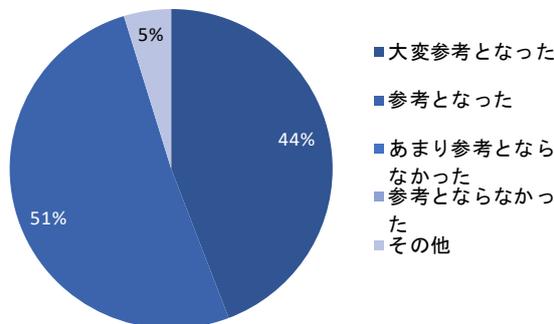
1. 基調講演についてお伺いいたします。

「感染症制圧に向けたグローバルな取組みとパンデミックに向けた明日への備え」

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund） CEO 國井 修 氏

1-1 GHIT Fund の國井先生には、世界における感染症制圧の取組やパートナーシップの意義や役割について解説頂き、検査・診断・ワクチンなどの開発を中心に 将来のパンデミックに対応した取組について講演頂きました。講演内容は、現在および今後のご活動において参考となりましたか。

	回答数	構成比
大変参考となった	28	44%
参考となった	33	51%
あまり参考とならなかった	0	0%
参考とならなかった	0	0%
その他	3	5%
無回答	0	—
計	64	



<その他の意見>

- ・ 先生のお話は開発途上国の保健衛生状況、先生のご経験、今後の日本の製品開発への示唆など大変分かり易く勉強になりました。
- ・ 感染症全体の概要から、エイズ、エボラ、コロナ等の個別事例、発症時のその国の環境等について、写真を交えながら説明であったので理解しやすかった。今後の日本の進むべき課題を率直に述べられていた。臨床はトップレベルだが、政策の進む方向性に難題がある。
- ・ 検査、診断、そしてワクチン（治療）を速やかに行うことで多くの命を救う可能性があること、そこに企業としてお役に立てる可能性があること、チャレンジしてみたいと思いました。
- ・ 世界で起きている感染症や、実際に國井先生が海外に出向いて経験されたお話など、写真を交えて貴重な講演を聞かせていただきました。
- ・ 感染制御に対する国際的な取り組みは非常に勉強になりました。画像を多用していただき、視覚的にも胸を打つ内容でした。
- ・ 対策するのも開発するのも、成長するためには根本的に考え方を見直していく必要があると学びました。
- ・ AMED 初期の国際部勤務時代に国際的な感染症研究をウォッチしていたが、しばらく遠ざかっているので、いろいろな情報を聞いて参考になった。
- ・ 必ずしも医学や薬学等の専門知識を持たない者であっても、理解しやすい視点と課題意識を起こさせる講演でした。
- ・ 世界的なパートナーシップのお話を聞きながら、組織内での連携と次への備えに苦勞する身ではありますが、感染危機や災害は来るという意識を切らさず準備を進めようと思います。
- ・ 新興感染症の発生状況、対応などの複雑さ、困難さを感じました。国家間のレギュレーションの格差、したたかさ、しなやかさなどを、いかに捌くかが課題山積と感じました。日本のドラッグラグ、ゾロ薬問題などの影響、新薬の開発に対する考え方など知見をいただきました。感染制御、対応は人類永遠のテーマと感じました。
- ・ 様々なお話をしていただきましたが、パンデミックに対して準備を今すぐ取り組む必要があるという言葉に背中を押されました。また、やはりお金が大事という言葉に納得しました。

- ・ 現地に行って支援する、お金や物品等を渡すだけでなく、ビジネスチャンスに変えるという発想が目から鱗であった。
- ・ 国際的な感染症対策の取り組みと貢献において、日本は initiative を取れていない。先進国の中で常に遅れており、いまま課題になっていることが國井講師によってたびたび指摘された。日本では分野横断型の社会課題をどの省庁、あるいはどの専門家が主な役割を果たして推進し、どのように責任を分かち合うかを決められない体質がある。その結果、対応が遅れ、国際的な批判を浴びることになる。意見の合うもの、同業者は寄り添い合い、意見の異なるもの、或いは異分野のものとは与(くみ)しない文化風土は根強く残り、イノベーション遅れの根源的な理由にもなっている。國井講師の指摘を真剣に受け止め、できる処からしっかり対応しなくてはならないと痛切に思った。國井講師が試みている対策をお伺いする時間がなく、残念であった。
- ・ 特に、日本国内の感染症予防対策（ワクチンの準備など）の致命的な遅れ、そして日本の国際的な支援活動が充分でないことを知って大変残念に思った。
- ・ 以前は基礎研究、行政に入って丸6年（そのうちコロナ3年）で今回のお話のようなグローバルな視点というのは日々の業務の中ではなかなかもてなかった。世界のいろいろな地域の状況やお金の動きを含めての全体の流れのような話を聞き、次のパンデミックには無駄に慌てず、状況を見ながら動くことができるのではないかと思った。
- ・ 感染症の世界情勢、今後の感染症への対応の仕方
- ・ 世界の中での日本の状況
- ・ 感染症のグローバルな現状をよく理解できた。
- ・ 世界各国での課題解決の仕方が一様ではないこと。
- ・ クライシスコミュニケーションなどの今後について
- ・ 感染症制圧にむけた取り組みの仕方を具体的にお話頂き、ありがとうございます。
- ・ 新型コロナを教訓として常に考えていかねばならないという先生のお話に共感しました。
- ・ なかなか世界における状況が具体的に分からず大変参考になりました。
- ・ 今後もさらに感染症が増加すること
- ・ 治療薬の開発により、多くの命が助けられることが印象深かった。
- ・ 海外での活動報告
- ・ 平時からの準備の重要性を再認識しました
- ・ 治療に当たっては診断が重要となること、そのための簡易で迅速・定量性ある検査診断方法について。
- ・ グローバルな取り組みを学ぶことができました。
- ・ 対策を立てるにあたり、そこで求められていることを正しく把握することの必要性の気付き
- ・ ユニセフの活動、グローバルファンドの重要性、日本企業がグローバルヘルスに貢献していること
- ・ 先生の海外での活動内容
- ・ 開発にはスピードが大切で、always on で準備しなければならないこと。
- ・ 国際的な感染症対策の俯瞰ができた。
- ・ どのように開発されているのかは参考になったが、直接的にはあまり関わりはないように思えた。
- ・ 物事の核心をついており、且つマクロ・ミクロでの現場からの言葉はとても参考になりました。
- ・ UNICEF での現地の状況のお話が、普段実感できない内容でしたので、ためになりました。

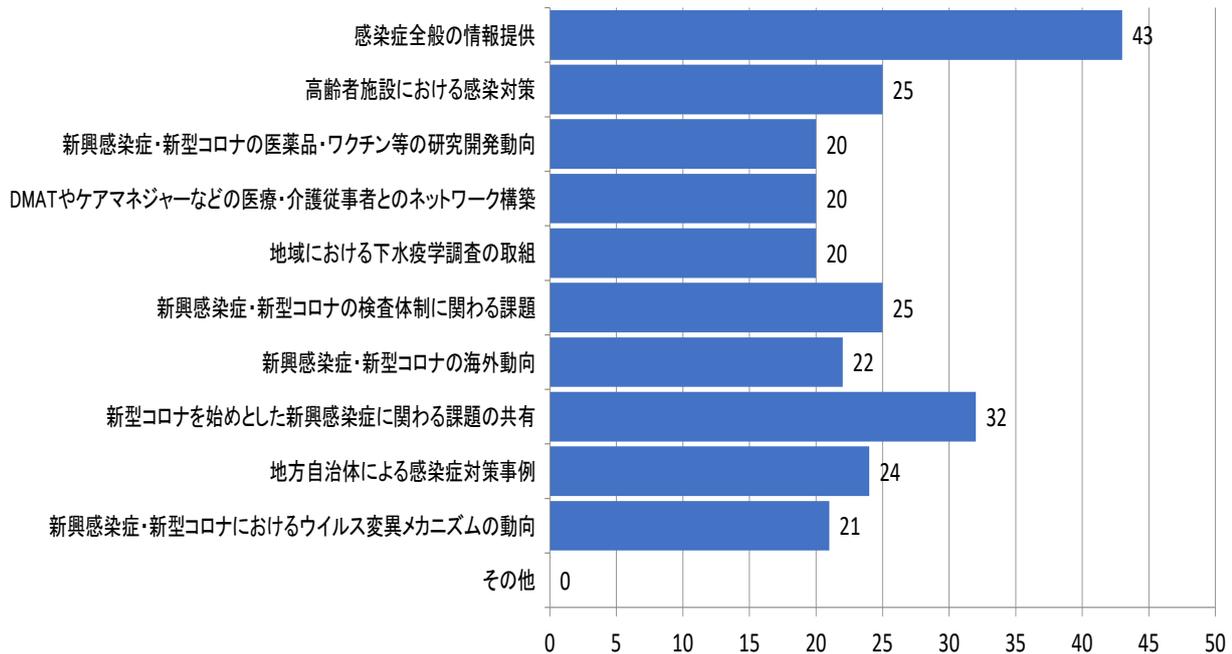
- ・ 日本では当たり前を受けられる医療が、発展途上国では当たり前でないことを再認識した。
- ・ 大規模感染症への対応は、迅速で的確な対策が必要であること。
- ・ 感染症対策は広い視野と多分野に渡る取り組みが必要であること

1-2 その他、講演に対するご意見・ご質問・ご感想がありましたらお聞かせください。

(自由記述)

- ・ 私は、現在の日本の感染症に対する対応に危惧をしております。感染症の検出法のアイデア、感染症診断の仕組みのアイデア（医師会系国会議員にご相談済み）があり研究や仕組みづくりをしたいのですが、その場が御座いません。研究等ができる場が欲しいです。
- ・ 吹けば飛ぶようなベンチャーではありますが、世のため、人のためと考え取り組む中に、今回の公演は、そのような気持ちをさらに活性化させる触媒のように感じました。これからもこのような機会に触れる機会の提供をお願いします。
- ・ 具体的にどう動いていったらよいのかということで、どんどん動かれていらっしゃる先生のお話を伺い、私もどうしたらよいのか考えていこうと思いました。
- ・ コレラのベッド、プランピーナッツ、ビタミンAなどの写真はとても印象に残りました。
- ・ パンデミックは繰り返し起こります、国を挙げた迅速な対応、備えが必要ですが、専門家の間でも大きな意見の相違があります。
- ・ 國井修教授、ご無沙汰しています。GHIT をうまく活用して、感染症の創薬に結び支援を展開ください。
- ・ 講演資料に講演内容が書かれていればよいが、このような重要なお話は記録に残して広く共有する必要がある。感染症に関する全国フォーラムと同じく「情報の共有」が国の対応力を生むからである。講演内容を文章化して必要あれば、JAREC の了解を経て誰でもアクセスできることが望ましい。多くのスライドとそれを補足説明する言葉の多さゆえに十分咀嚼できなかったきらいがある。
- ・ 別件の会議と重なり、オンタイムでの視聴が叶わなかったので、ビデオでの視聴を希望。
- ・ 御体験に基づく講演で迫力があった。
- ・ 一時間を一息という感じのご講演で、パワフルでついていくのが大変でした。
- ・ 素晴らしい内容に感銘しました。ありがとうございました。
- ・ レプリコンワクチンの安全性について詳しく知りたかった。
- ・ グローバルな考え方について地方でも講演をお願いしたい。
- ・ エリアにより環境や感染をおこす病原体が異なるが、国際的に協力可能な対策もありそう。
- ・ 非常に面白かったです。気分が高揚しました。
- ・ 世界中の最前線でのご経験からのお話は、頭が下がる気持ちと同時に本当に説得力のある内容であった。
- ・ グローバルヘルスの重要性がよくわかりました。ユニセフに募金しようと思いました。

2. 今後のシンポジウムで講演を希望するテーマについて、当てはまるものにすべてチェックして下さい（複数回答可）。



3. JAREC は、今後もシンポジウムの開催を予定しております。今後の開催に際して、希望する講演や事例紹介などのご要望等がございましたら、ご意見をお寄せ下さい。

（自由記述・全角 200 文字以内）

- ・ ヒト以外の生物の感染症がヒトに感染する可能性に関すること
- ・ コロナのワクチン接種推進をモデルナやファイザーも講演会や広報をされている。エーザイの法務役員から、モデルナジャパンの社長になった人がいます。コロナワクチンの物事には、とても興味深い。参考までに。
- ・ 診断薬関連に関して。今後も是非とも参加させて頂きたい。
- ・ 地球の温暖化は今に始まったことでは無い。1 2 万年前にも同様の環境が発生していた。単純に炭酸ガス減少対応で解決できないことは自明である。したがって、温暖化している環境で人類が発展を続けるための、本質的な対応を考えるシンポジウムの開催を希望する。
- ・ 様々な視点の内容で毎回楽しみにしています。
- ・ 西浦氏のような感染症の理論疫学者による数理的な講演。
- ・ 各国のアカデミアの体制、安全保障とも大きくかかわります。紛争への細菌兵器などの開発、使用事例なども気になります。
- ・ 予定があれば、是非とも会場（オンサイト）で伺いたい。
- ・ 岡部信彦先生の感染症の経験を拝聴したい。小児科医、コロナの時の政府の委員のひとり。感染症研究所感染症情報センター長、WHO、川崎市健康安全研究所所長など歴任。
- ・ 同じテーマで継続することが大事、継続は力をうみます。
- ・ 新型コロナの後遺症に関する状況や研究内容、新たな知見等。今回業務多忙で聴講できませんでした。オンデマンド配信があれば希望します（今回はないと聞いていますが）。また、資料配布いただける

ものがあれば提供していただきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

- ・ 取り敢えずは広域で、国民の多くの関心事である感染症に関して、情報提供・共有を継続することが望ましい。
- ・ 身近なテーマも必要性が高いが、科学技術には夢、未来があることを感じられるテーマも聞いてみたい。今回のような現場をよく知る方（昔、こうだった、でもなく）の講演を期待します。

以 上